

間もなく八月のお盆です。お墓が近くにないという方は、この週末に車で出かけて行って、お迎えを済まされるかもしれません。

お盆とは正式には盂蘭盆会と言います。近年は靈魂を意味する古代ペルシャ語の「ウルヴァン」に由来するという説が有力です。つまりお盆とは御^み霊^{たま}をお^{まつ}祀りする行事という事になるでしょう。

現在は七月と八月のどちらかに行われるようになっていますが、元々は七月の行事でした。とは言いましてもそれは旧暦の時代の話で、明治六年に現行の新暦に改まってからは新暦の八月の方が旧暦の七月のお盆の時期に近いという事もあり、八月のお盆を行う地域が全国的には多いようです。その為八月のお盆を別名月遅れのお盆と言うのです。今年は八月の二十三日が旧暦の七月十三日に当たります。

さてお盆の特徴的な所と言えば、ご先祖様のお墓への送り迎えという事でしょう。考えてみますと私達には普段、お参りする場所が二か所あります。お位牌の置かれたお仏壇と御遺骨の眠るお墓です。十三日のお盆の入りの日を迎え火を焚いてお迎えをするのは、お墓の御遺骨に宿るといわれる存在です。この御遺骨に宿る存在を家にお連れして、お位牌に宿るといわれる存在と一つになる事でご先祖様は懐かしいこの世のご家族の元に戻ってくるという儒教の考え方が元になって、長い間信仰されているのです。

この世に戻って来られたとは言っても、既に旅立たれた方ですから、こちらの世界での落ち着き場所をご用意しなければなりません。お盆の期間に盆棚を作り、そこにお仏壇からお出したお位牌をお祀りするのはこのような理由によります。その盆棚にご供養の品々をお供えし、お参りをしてご先祖様に私達はお顔を見せて差し上げます。もしお食事を共に出来るようなら更に大きなご供養となることでしょう。そして名残惜しい気持ちを抱きつつも、十五日もしくは十六日にお墓で送り火を焚いて向こうの世界へ送り出し、盆棚の後片付けをしてお盆の行事を締めくくるのです。このようにお盆の行事にはとりわけ子孫である私たちのお手伝いが必要なのです。

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

ところが近年はお墓が遠いとか、盆棚までは中々準備が難しいなど簡素化、省略化の傾向にあるのも事実のようです。しかしお盆がご先祖様をこの世にお迎えしておもてなしする行事だとするならば、家の玄関口でお迎えのあかりを灯し、小さな机などを用いて簡易な盆棚を設け、そこにお仏壇からお位牌を出してお帰りになったご先祖様をお祀りすることも出来ます。そしてお盆の最終日に家の玄関口からお送りする灯りと共にお墓に向けてお見送りをするという形でのご供養ならば可能なのではないかと思えます。

目には見えずとも、むしろ目には見えないからこそ多少の手間暇をかけて準備し、ご先祖様と交流することで生まれる心の豊かさこそ、私達は大切に守っていききたいものです

— 終 —